

北海道原水協 F A X ニュース

原水爆禁止北海道協議会 Eメール hokkaidogensuikyo@pearl.ocn.ne.jp

電話 011 (747) 7557 fax (747) 7537 2015年9月14日

被爆70年を核兵器廃絶の転機に！ 「実際に被爆者の方々の話を聞いて・・・悲惨な残酷な戦争、二度と起こしたくない」涙ながらに訴える 世界大会報告集会～今年も2人の代表派遣 主催／核廃絶・平和を願う標茶町実行委員会 後援／標茶町教育委員会

9月10日夜7時から標茶町開発センターで平和の集い・世界大会報告集会が開かれました。

実行委員長の石崎恭子さん(写真右)は、「被爆70年、戦後70年の節目の年、被爆の実態を伝えることが困難になってきています。実行委員会では200人以上の町民から募金していただき、町民から寄せられた2000羽余りの折鶴を2人の代表に託しました」と挨拶しました。



代表の永谷まやさんと篠原芹奈さんの2人の高校3年生は7月28日に標茶町を表敬訪問し「核兵器の悲惨な実態を学び周りの人に広げたい」と抱負を語り、副町長は「若い人が引き継いで平和を築いていってほしい」と激励しました。

永谷さんと篠原さんは、たくさんの写真を紹介しながら報告しました。「テレビで見ているだけではわからない。その場で感じるのが大事」「資料館の焼けた服は小・中学生のものばかりで胸が痛くなった」「戦争のことは全然知らなかったの、自分たちもしゃべっている交流できてよかった」と感想をしっかりと参加者に伝えました。

私たちは、今年も広島大会に代表者を派遣し、被爆の実相、核兵器の残虐性を見聞きし平和の声をより広げてもらいたいと思っています。以下2名の代表派遣の財政援助をお願いいたします。(町民への募金の訴えから)

◎「若い人のあいだで戦争とか原爆の話はする？」など参加者の質問に、「今回代表に決まって勉強し、考えた。教科書でしか、それも一部しかわからない。ぜひ高校の全校集会でも話したい」と一生けん命に答えました。



1階ロビーでは原爆パネルなど「平和展」開催

◎報告集会には悪天候の中、約40人が参加。2人の高校からは、校長先生をはじめ7人の教師も参加し、「修学旅行で広島、長崎を訪れた感動を思い出した」と感想も述べられました。40年前に標茶町実行委員会の代表として広島に参加した方は「一人ひとりの生き方に思いをはせる。想像する力が大事だ」と感想をのべました。

